

事務事業名	三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業		所属部	建設部	所属課	都市計画課
総合計画体系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>	所属G	都市計画グループ		
	施策名	(09)都市・住まいづくりと土地利用の推進	担当者名	伊藤 大輔	課長名	小村 利之
	目的	対 象 市内全域 意 図 有効かつ効果的に利用・整備する。	電話番号	0854-40-1064 (内線) 2461		
	基本事業名	(027)中核拠点ゾーンの整備促進	予算科目	会計 014007 款 014007 目 202001 項 202001	大事業名	三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業
	対 象 中核拠点ゾーン 意 図 都市機能拠点を整備する。			中事業名	三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度 ~)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (28 年度 ~ 33 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
国の都市再生整備計画事業により、道路の整備等による中心市街地の利便性と回遊性の向上、イベント広場整備による交流人口の拡大、賑わいの創出と商業施設への集客性の向上などにより、中心市街地の活性化を図る。
【全体事業費】620百万円 H28 都市再生整備計画策定 H29 測量設計業務、用地調査業務 用地物件補償 H30 道路改良工事、元気パーク整備 公衆用便所建設、測量設計業務 用地調査業務、用地物件補償

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動)	30年度計画(30年度に計画する主な活動)			
		・測量設計業務 ・用地調査業務 ・用地取得 ・物件移転補償	・道路改良工事 L=150m ・元気パーク整備 A=1,200㎡ ・公衆用便所建設 N=1箇所 ・測量設計業務 一式 ・用地調査業務 一式 ・用地物件補償			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	ア 道路整備進捗率	%		0	24.7	69.8
	イ 広場整備進捗率	%		0	21.6	66.5
	ウ 緑化施設整備進捗率	%		0	6.7	100.0
	エ 障害者誘導施設整備進捗率	%		0	3.9	100.0

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	雲南市民	ア 雲南市の人口	人	39,032 (基準値)	38,506	37,794	37,987
		イ					
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	都市基盤施設整備による居住環境の向上により、中心市街地の人口増加傾向の維持、及び来訪者の満足度向上を目指す	ア 中心市街地の人口	人	2,051 (基準値)	2,024	1,993	2,052
イ 中心市街地の賑わい・交流の満足度		%	47.8 (基準値)	60.6	62.5	50.0	
ウ 公共交通ネットワークの満足度		%	45.3 (基準値)	55.8	57.1	47.0	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
・委託費 20,755 千円	財源内訳	国庫支出金	千円		97,654	99,896
・公有財産購入費 34,714 千円		県支出金	千円			
・補償費 44,250 千円		地方債	千円		1,900	326,900
・事務費 97 千円		その他	千円			15,000
		一般財源	千円		262	2,304
	事業費計(A)	千円			99,816	444,100
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	
		延べ業務時間	時間	400	600	
		人件費計(B)	千円	1,587	2,446	
	トータルコスト(A)+(B)	千円		1,587	102,262	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
旧まちづくり交付金が平成22年度より社会資本整備総合交付金に統合され、同交付金の基幹事業である「都市再生整備計画事業」として位置づけられた。なお、現行制度に基づく支援は平成30年度までに作成された計画となり、平成31年度以降は立地適正化計画策定区域等が対象となる。	中心市街地活性化を実現するためには、本事業と関連事業である民間商業施設整備、ホテル誘致が核となるため、市・商工会・まちづくり会社が一体となって、誘致活動等を進めている。	本事業を含め、中心市街地活性化事業に対しては、市民及び市内商工業者から関心が高い。

事務事業名	三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業	所属部	建設部	所属課	都市計画課
-------	-----------------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	関連事業である民間事業者による商業施設整備、及びビジネスホテル誘致など、他事業の進捗にあわせた計画が必要のため、民間事業等がスタートすることにより向上の余地がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	中心市街地活性化基本計画に基づく事業であるため、他事業の進捗に大きく影響する。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	類似事業はない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	最良の工法等により計画している。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	最小限の人員計画であり、削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	中心市街地活性化基本計画に伴う事業であり、受益者は市民全体となり、公平性は保たれている。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
本事業による都市基盤施設整備、関連事業である民間事業者による商業施設整備、及びビジネスホテル誘致により、定住人口の流出・購買力の流出・交流人口の流出の課題を一定程度解決できる手段であるため、中心市街地活性化を推進していく上で重要な事務事業である。				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
H33年度事業完了を目標に事業を推進する。																					
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上	●																			
	維持		×																		
	低下	×	×																		
廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																					